花と緑の銀行だより

157号 2005. 9

ノコンギク/八尾町下の茗

目次

・花と緑の提言……2
・氷見市の花と緑のまちづくり……3
・花壇づくりのポイント……4
・とやまの花壇苗・鉢花……5
・秋に実る樹木の実（写真コーナー）……6～7
・地域の環境美化を基本に花で潤いのあるまちづくり
南砺市福野地域花と緑の推進協議会……8
・モンクロシャチホコの被害と防除……9
・この人あり……10
・草花の害虫とその防除法……10
・情報コーナー……11

“冬”から“春”のイベントへ
「第１６回花と緑のフェスティバル」開催に向けて

北日本放送株式会社
常務取締役営業局長
鞍田　朝夫

「あなたの冬は咲きますか」のキャッチフレーズで“冬”のイベントとして県民の間にすっかり定着してきた「花と緑の冬のフェスティバル」が、今年度から“春”のイベントとしてリニューアルされることになっています。

長かった冬から解放され、県民生活の中に花と緑を活用した彩り豊かで安らぎのある生活スタイルを提案するとともに、春の訪れを楽しみながら、県民の花と緑に関する創造性豊かな暮らしの実現への意識を高めることを目的に、開催時期を２月中旬から３月初旬へ、開催場所も富山市のテクノホールから富山市婦中町のフューチャーシティ「ファボーレ」に移して開催される予定です。

そもそもこのフェスティバルの始まりは、昭和５８年５月に置県１００年の記念事業として「花と緑のフェスティバル」が開催されたのがきっかけだったと聞きます。その後、昭和６３年度から平成元年度まで県民の緑化意識の高揚を目的として夏に開催されてきましたが、当時、財団法人「花と緑の銀行」の理事長だった中沖前知事から、冬の県民生活に活力を与えるイベントとして冬の期間の開催が提案され、平成２年度からは「花と緑の冬のフェスティバル」として毎年２月に開催されてきました。平成３年２月９日から１１日にかけて県民会館のロビーや美術館、地下展示場を会場にして開かれた「第１回花と緑の冬のフェスティバル」には、外の寒さをよそに春の訪れを予感させる花と緑の展示やイベントに２万３０００人の来場者が詰め掛けました。その後、平成６年度の第５回から富山市のテクノホール（平成７年度は緑化フェアのプレイベントとして高岡テクノドームで開催）に会場を移して開催されてきましたが、この間、毎年２～３万人（多い年は４万人以上）の来場者を数え、昨年度までの１５年間にのべ４２万５０００人余りの県民が会場を訪れています。「花と緑の冬のフェスティバル」は、「日本一の花と緑の県づくり」を推進する一環として、また、冬の期間における緑化の啓発普及を図る事業として、大勢の県民が楽しみに待つ恒例イベントになってきました。

北日本放送では、第１回からこれまで(財)「花と緑の銀行」とともに事業の共催という立場でフェスティバルの運営に携わってきました。ラジオやテレビを通じてのフェスティバルの広報をはじめ、「ガーデニング教室」「フラワーアレンジメント教室」「生け花教室」などのステージイベントの企画進行を担当してきました。

この間永年にわたり、多くの出展団体や県内市町村のグリーンキーパーなど関係の皆様にご支援ご協力いただいたことに心よりお礼を申し上げます。

冒頭にも書きました通り１６回目のフェスティバルは、来年の3月3日（金）から5日（日）までの３日間、富山市婦中町の「ファボーレ」で開催されることになっており、現在、事務局と実行委員会でフェスティバルの内容や運営などについて具体的な検討が行なわれています。キャッチフレーズも、これまでの「あなたの冬は咲きますか」に変わって「花と緑がいっぱい、もう春ですね」が候補として考えられています。

会場が、大きなイベントホールから大型ショッピングセンターに変わることによって検討課題も多いかと思われますが、変わることで生まれる新しい成果も期待できるように思います。日常のショッピングゾーンで春一番に展開される“花いっぱいのイベント”は、「日本一の花と緑の県づくり」の推進に新しい理解者を増やすチャンスになるのではないでしょうか。是非、成功させたいものです。

北日本放送では、引き続きイベントの運営を担当させていただくことになっています。関係の皆様の変わらないご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

氷見市の“花とみどりのまちづくり”

氷見市ふるさと整備課
花・みどり推進班

氷見市では、第７次総合計画において本市が目指す将来都市像のひとつに「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」を揚げています。

これは、豊かな自然に育まれた歴史や文化、海山の幸を生かしつつ、将来の氷見市が花や緑があふれるまちを目指すものです。

市民の皆様が広く理解し、受け入れられる「花とみどりのまちづくり」を進めるためには、市民と行政がお互いの役割分担、推進体制などを共に考え実践する、パートナーシップが大切と考えます。

その一つとして、平成１５年度より「花とみどりのまちづくり市民リーダー養成講座」を開催しました。講座では、園芸の基礎から園芸療法、地域コミュニティーの形成など、花や緑によるまちづくりについて幅広く学んでいただきました。さらに、市民リーダーとしての、実践的活動や継続性を目指し、「花とみどりのまちづくり市民研究会」へと発展し、今年市内２箇所での花壇づくりを通して、実際に「地域の住民との関わりの中での具体的な花とみどりのまちづくり」を行っています。

市民研究会による花壇づくり

その他、市民緑化ボランティアや頭取・グリーンキーパーが一体となって取組む“ウェルカムロード・花いっぱい運動”“阿尾水仙海道づくり”や市民主導による“ひまわり大作戦”など多くの緑化活動が行われています。

そこで、年々広まる市民緑化活動に対する支援事業（原材料支給制度）の拡充を図ったり、応募者が多く、永年続いている（３１回目）「花と緑の日曜学校」の開校など、さらなる市民緑化の普及・啓蒙に努めていきたいと考えています。

阿尾水仙海道づくり

「花とみどりのまちづくり」は、始まったばかりです。まさに、一人一人が全体のために、全体は一人の幸せを考えたまちづくりを進めていくことが大切です。

花や緑を育てることを通して、市民と行政が協働し、自然との共存の中で、命の尊さや四季の移ろいを感じる「心豊かなまち」、訪れた人が思わず立ち止まりたくなるような「もてなしの心に満ちたまち」を実現させていきたいと思います。

花壇づくりのポイント ～基本は土づくり～

南砺市園芸植物園
園　長　**石﨑　力**

県内の花壇は一般花壇、学校花壇、花の街道等、年々レベルが向上し、全国コンクールでは毎年上位に入賞しています。植栽植物も草花の一年草、宿根草、球根類や樹木など種類が大変多くなってきています。

今回は植物が育つ時の基本である土について確かめたいと思います。

今年は長い間空梅雨で晴天が続いた後、一転して豪雨が数日ありました。この厳しい天候で一部の花壇では、根腐れなど病気が発生しました。しかし、良い土でつくられた花壇では被害が少なく、あらためて土づくりの大切さを感じました。

さて、土づくりについて先ず

①土の三相について

土の中の状態は、**・固相**（土の粒子など固体の部分）、**・液相**（水分など液体の部分）、**・気相**（空気など気体の部分）から成り立っており、三相のバランスがとれていることが植物の生育に良いのです。

②土の構造について

土の中の粒子の重なり具合により、土の状態は単粒構造と団粒構造に分けられます。

・単粒構造は土の粒子（単粒）がばらばらの状態で、水や空気の浸透が悪く、植物の生育には良くない状態です。**・団粒構造**（単粒が集まって「だんご」状態になっている）は粒の間にすき間が多くあり、空気や水が通りやすく、根の生育に良い状態です。

③良い土の条件は7つあります

⑴**通気性が良い**　根は酸素を吸収して呼吸をしています。土の中に新しい空気が入り込まないと根が窒息して根腐れを起こします。通気性を良くするには、気相の割合が高い用土を混用します。（パーライト、腐葉土など）通気性の良い土は乾きやすい土でもあります。

⑵**排水性が良い**　常に土中の古い空気と新しい空気を入れ替えます。水はけの良い土は軽石など粒の粗い土で、すき間が多くあり、水や空気を貯えます。水はけが悪いと根腐れを起こします。

⑶**保水性が良い**　排水性と保水性は相反する性質でありますが、団粒構造の土はこの性質を兼ね備えています。用土にはこのバランスが大切で、土は適度の水分を保つ必要があります。保水性のある土はバーミキュライト、完熟堆肥、腐葉土など。

⑷**保肥性が良い**　土が養分を保持する性質を保肥力といいます。土の粒が養分を抱えて、根が養分を求めると離します。団粒構造は保肥力が強い。保肥力の強い土を作るには有機質（完熟堆肥、腐葉土）を多く施します。

⑸**有機質（完熟堆肥）を施す**　完熟堆肥、腐葉土を混ぜると土の団粒化を促進します。上記の⑴～⑷が良くなります。

⑹**酸度**　植物により生育に適した酸度（pH）は異なります。普通は弱酸性（pH5.5～6.5）が良く、酸性が強いと根が生育障害を起こします。販売している用土には、調整ピートモスなど弱酸性に調整してあるものもあります。はっきりしない場合は土壌酸度計で調べます。

酸性の土を直すには石灰類を、アルカリ性の土を直すには酸性の強いピートモスを混ぜます。酸性を好む草花（pH５～６）ツツジ、カラーなど。アルカリ性を好む草花（pH７～８）マリーゴールド、パンジーなど。

⑺**清潔な土**　有害な病原菌、害虫、雑草の種子などが無いこと。また、ガラス片、金属片、有害化学物質などの異物がないことです。

④用土の種類は多くあります。

・身近にある入手しやすい用土が基本用土です。田土、山土、畑土など
・植物を素材とした腐葉土、ピートモス、バーク堆肥、くん炭など
・岩石を焼成したパーライト、バーミキュライトなど

⑤用土の配合

用土作りの基本は、

⑴花壇の土の種類を知ること。また新しく花壇を造成する際もベースとなる土を知ること。
⑵花壇用植物の性質、特に根の性質を知ること。
⑶上記の⑴、⑵から良い用土を作るには入手しやすく安価な用土を選択することです。

実際の土作りには山土がベースであれば、先ず酸度を測定します。そして毎年有機質を多く含んだ用土を入れます。田土がベースであれば、粘質な土を改良するため軽石やパーライト、堆肥などを入れます。砂土であれば堆肥、腐葉土を多く入れます。

いずれにしても用土づくりは花壇づくりの基本です。

スプレーマム

富山県農林水産部技術推進課普及指導班
佐藤　克美

１．スプレーマム（スプレー菊）の特徴

キクの仲間は北半球に広く分布し、約２００種が自生するといわれています。栽培種は、伝統的な和ギクと欧米で品種改良された洋ギクに分けられます。

鉢物としても人気があるスプレーマムは、欧米で改良された花色が豊富で花がスプレー状に咲くタイプの洋ギクです。秋を彩る鉢花として欠かせない存在であり、県内では約１３千鉢生産されています。

２．生産の現場では・・・

キクは、日長（昼の長さ）をコントロールすることによって開花時期を早くしたり、遅くしたりして周年出荷することができます。

県内で栽培されているスプレーマムは、自然開花で１０月末～１１月に開花する秋ギクをシェード（遮光）して、自然より一足早い９月から出荷しています。シェードとは、昼の時間が短くなると花芽分化して開花する秋ギクの性質を利用して、遮光資材で被覆して昼の長さを人工的に短くして早く花を咲かせる開花調節技術です。

スプレーマムは、６月中旬から７月中旬にかけて定植されるため、株を養成する夏期間が高温、多湿条件となるため、日中は遮光資材を駆使して気温を下げ、風通しを良くすることが大切です。気温が高い時期はハダニ類やアブラムシ類が発生しやすいため防除を徹底しています。

３．スプレーマムの選び方

スプレーマムは、花色は鮮明な桃、赤、黄、白などに覆輪などがあり豊富です。

鉢を購入する際には、花色とともに、次のことに留意して選びましょう。

①葉は緑色が濃く、葉の枚数が多いもの。
②鉢と株の大きさのバランスがよいもの。
③節間が詰まり、株全体が締まったもの。
④下葉が枯れ上がっていないもの。
⑤葉に病害虫のついていないもの。

４．花を長く楽しむための管理

①置き場所

長期間室内に置くと、光不足で蕾が咲きません。戸外の日当たりの良い場所で十分に花を咲かせてから、室内で楽しみます。室内でも、窓辺などできるだけ日当たりのよい場所に置きます。寒さには強く、戸外で越冬させることもできます。

②水管理

水やりは、土の表面が乾いたらたっぷりやりましょう。土が乾きすぎると、花や葉がぐったりと萎れてしまうので注意してください。

③株の手入れ

咲き終わった花はこまめに取り除きましょう。株もとから新しい芽（冬至芽）が出てきたら、花の終わった茎を切り戻して、新しい芽を育てます。

葉色が薄くなってきたら、液肥で追肥します。肥料をやりすぎても株が弱るので注意してください。

「遮光による温度管理」

〈写真コーナー〉

実りの秋満載

秋に実る樹木の実

中央植物園の行事「ドングリで遊ぼう」の作品。
今年は10月９日・１６日に開催を予定。

クマシデ　瓦状の付属物の間に種子が入っており、回転しながら落下します。

ゴンズイ　赤い果皮と黒色の種子は、鳥に見つかりやすくするためと考えられています。

オニグルミ　緑色の外果皮は染色に利用されます

ツノハシバミ　ヨーロッパ原産のヘーゼルナッツの仲間で、県内の山でも生育しています。

モミジバフウ　棘のような突起部分が割れて、中から細かな種子が多数散布されます。

イヌビワ　県内には自生していませんが、西日本の沿岸部でみられるイチジクの仲間です。

イタグリ 中国原産のクリで天津甘栗の原料です。

コブシ 拳のような果実の形から名前がつけられました。

クチナシ 一重咲きのものが秋に結実し、黄色の色素として料理に使われます。

ムラサキシキブ 園芸店では実つきのよいコムラサキが多く流通しています

ナナカマド それぞれの果実には1～5個の種子が入っています。

アカガシワ（アメリカアカナラ） 北米原産で日本のドングリよりも大型です。

ウリカエデ 果実に付属しているプロペラの角度は、カエデの種類によって異なります。

エゴノキ 果実に含まれるサポニンは有毒なので注意が必要です。

（写真撮影中央植物園山下主任研究員）

地域の環境美化を基本に花で潤いのあるまちづくり

南砺市福野地域花と緑の推進協議会
会　長　　**城　宝　隆**

旧花と緑の銀行福野支店は７地区で構成され、地区毎に活動を実施してきました。平成５年にもっと町民に花と緑をアピールし、親しんでもらうため町中心部にある文化創造センター（ヘリオス）広場で、各地区に配布する夏花苗（約２万株）を飾るフェスティバルを企画し、町民の関心を集めました。同時に頭取・グリーンキーパーを中心に、花と緑の活動推進協議会を発足させ、一般企業を含めて会員１１５名で現在活動をしています。

南砺ふくの花と緑のフェスティバルの開催

フェスティバルは毎年５月末又は６月上旬の土・日曜日の２日間、南砺市園芸植物園で開催し今年で１３回となりました。

屋外では、花のオブジェ、コンテナガーデンコンテスト、ミニ花壇（今年から町村合併前の７町村より協力参加）等約５万株の花苗を活用し展示しています。温室では「南砺の彩り」として各地区で親しまれた椿やしゃくなげ等を展示し、屋内では、さつき、山野草、盆栽、野の花、押花、ボトルフラワー、植物画のグループが活動展示をしています。また、フラワーアレンジメントや花の手作りおしゃれ工房（押花）の体験コーナーや茶室・喫茶コーナーを設ける等　多くの来場者でにぎわいました。

花と緑のコンクールの開催

花壇等の活動は、今年管内に設置された花壇等、大小併せて４０ヵ所で実施されています。内コンクールに応募された２２点（一般花壇１７点・花の道５点）が審査されました。６月の晴天、７月の大雨で苦労した年でしたが、会員の熱意と技術向上で被害も少なく、評価の高い審査講評（園芸植物園園長）を受けております。

南砺菊まつりに協力参加

南砺菊まつりは、毎年１１月上旬に約１０日間、市園芸植物園で開催されます。

当協議会も南砺の花スプレー菊を主体として、会場内中心部ステージ及びその周辺の花飾りや、入場ゲート前の花壇づくりを担当し支援をしています。装飾用菊は会員で栽培するとともに、スプレー菊の普及にも努めています。

以上、主な協議会の活動事例を紹介しましたが、その他会員の融和を図るため、県内外を研修し、技術の習得や地域に花と緑を親しんでいただけるよう努めていきたいと思っています。

南砺ふくの花と緑のフェステバル会場

花と緑のコンクール審査風景

街路樹や庭木を守る－モンクロシャチホコの被害と防除－

富山県林業技術センター林業試験場
西村　正史

庭木や街路樹として植栽されているサクラの葉がほとんど食い尽くされる被害が夏から秋にかけて観察されます。これは、前回紹介したアメリカシロヒトリの２回目の食害による被害であるか、あるいはモンクロシャチホコの食害による被害であるかのどちらかです。しかし、運が悪いと、両方の食害を受ける場合もあります。今回は、モンクロシャチホコの被害と防除について紹介します。

いつ頃発生するか

１年に１回発生する害虫です。成虫は８月上旬頃をピークに発生します。成虫は梢の枝先の葉裏に30粒程度の塊として産み付けます。ふ化した幼虫はその周辺の葉を集団で食害しますが、大きくなると分散して食害するようになります。葉を食い尽くすと下方の葉へと移動しますので、枝の先端から葉が無くなって行くという特徴があります（写真）。また、異常発生した場合には地面にたくさんの糞が落下しますので、雨等で糞が溶けるとブドウを潰したような赤紫色になるという特徴もあります。

若い幼虫は赤褐色ですが、老熟幼虫になると、紫黒色となり、体には黄白色の長い毛が生えてきます。この虫は危険を感じると頭部と尾部を持ち上げて、威嚇姿勢をとります。この形が舟のような形に見えるので、フナガタムシとかシリアゲムシとも呼ばれています。

10月に入ると、地上に降りて浅い土中にマユをつくり、その中で蛹となります。冬を越した後、そのままの状態で夏まで過ごすことになります。

どのような樹木を加害するか

サクラ、ウメ、リンゴなどのバラ科の樹木を加害しますが、主にサクラに異常発生することが多い害虫です。なお、この虫の食害時期は秋なので、サクラの樹勢に及ぼす影響は少ないと思われます。しかし、花芽も食害しますので、翌年の開花に影響があります。

どのようにして防除をするか

前回も述べましたが、出来るだけ農薬を使わないで防除することを心がけましょう。そのためには、この虫の生態を良く理解することが大切です。ふ化したばかりの幼虫は枝の先端部を集団で食害していますので、下から見れば先端部がほとんど無くなっている状態の枝があれば、その直下で食害していますので、その部分を含めて被害を受けた枝を高枝バサミで切り取って足で踏みつぶしましょう。

この時期を逃すと幼虫の食欲は旺盛になりますので、農薬の助けを借りる必要があります。ホームセンターなどに行ってオルトラン水和剤などのモンクロシャチホコ用の薬剤を購入して使用してください。

モンクロシャチホコの被害を受けたサクラの梢

この人あり　花づくりで魅力ある地域づくりを

富山支店婦中支所　新町さくら会
代表　**荒木さち子**さん

富山市婦中町新町地内で、例年４月に開催される伝統行事の「婦中曲水の宴」で有名な各願寺の周辺で、歴史ある地域をより美しいものにしていこうと、平成４年、荒木さち子さんが新町婦人会の花づくりに関心のある人達に呼びかけ「新町さくら会」を結成されました。

この「新町さくら会」は、隣接する簡保保養センターや呉羽カントリークラブに通じる道路沿いにある「新町花壇」を管理しており、宿根草や球根も利用して、５０～６０種類の花が四季毎に次々と咲き、通行する人達の目を楽しませています。荒木さんは日々、水やりや除草等の管理を欠かさず行っておられるだけでなく、頭取やグリーンキーパーさんたちと道路沿い等にサルビアやニチニチソウなどの一年草を植えたり、プランターを並べたりと、地域に密着した活動を繰り広げています。なかでも集落公民館は、春の曲水の宴の時には獅子舞や奴行列の出発する所で、色とりどりの花でにぎやかに飾り、喜ばれています。

長い期間（１３年間）にわたって地域の緑化の推進にご苦労されておられる荒木さんですが、一番の喜びは、通りかかりのタクシーの運転手さんや病院通いのお年寄りの方から「毎日きれいな花を見せてもらってありがとう。」「季節ごとに変わった花を咲かせている花壇を見るのが私の楽しみになっているのですよ。」と声をかけてくださることだそうです。

荒木さんは、今日も地域の花と緑の推進に孤軍奮闘されておられますが、日頃から地道に長い間取り組むことの大切さを訴えておられます。そして、一緒に活動・お手伝いしてくれる皆さんに感謝されておられました。

（富山市婦中総合行政センター農林商工課　遊井　喜一　記）

草花の害虫とその防除法

6．コガネムシ類

富山県立大学非常勤講師
成瀬博行

コガネムシ類は、甲虫のグループの一つで、子供達に人気のあるカブトムシやファーブル昆虫記の巻頭を飾るタマコガネもこの仲間です。たくさんの種類があり、我が国では、数百種が記録されています。

幼虫は土の中で植物の根や腐植などを食べて生長します。土を掘ると２～３㎝の長さで、白くころっとした幼虫を見つけることがよくあります。

成虫は、植物の葉や花を食べる種類の他、樹液を好んでなめる種類や動物の糞を食べる糞虫といわれる種類もあります。いずれも甲虫の中では比較的大型で、金属のように光沢が美しいものや形の面白いものが多いので、子供だけでなく、大の大人で愛好家も結構います。幼い頃、つかまえたコガネムシに糸を結びつけ、飛ばして遊んだ記憶のある方も多いでしょう。

成虫が植物を加害するコガネムシ類には、ヒメコガネ、マメコガネ、ドウガネブイブイなどたくさんの種類があり、ダイズ、野菜、樹木などの葉を暴食して大きな被害を与えます。

また、根が幼虫に食害されると、生育が悪くなり、ひどい場合には枯れてしまうこともあるといわれています。

草花の場合は、特に花の被害が問題で、せっかく美しく咲いた花に群がり、花弁を食べてしまうので、美観を著しく損ねます。写真はマメコガネがハマナスの花弁を食べているところですが、とりわけバラの仲間の花を好むようです。

葉を加害する場合は、網目状に葉脈を残すように食べるため、花と同じく草花の鑑賞価値を下げるだけでなく、生育に悪影響を与えます。

成虫は、普通５月～９月頃に現れます。防除法としては、まず見つけ次第つかまえて取除いて下さい。次々に新しい成虫が飛んで来ることもありますが、こまめに対応する必要があります。また、花壇の土づくりや定植の際に土の中に幼虫を見つけた時は、ただちに取り除くことも根の被害を抑え、成虫の数を減らすうえで効果があります。

花と緑のニュース

木工手作り教室で子供達が奮闘(頼成の森)

木と触れ合い、木の温かさや軟らかさなど木の良さを体感してもらう「木工手づくり教室」を８月６、７日（土、日）県民公園、頼成の森で開催しました。約 130 名の皆さんが参加して、木琴やえんぴつ立てなどのキッドを仲良く仕上げていく親子の方が多かった。一方、何枚もの端切れ材を加工組み立て独創的な作品に挑戦する方も見受けられました。子たちには、作り上げる時の楽しさを十分味わえたことと思います。

親子で楽しく木工工作

お知らせ

◆平成17年度推奨花壇の認定結果について

推奨花壇は、今年度からの新たな審査制度で、県内や全国の花壇コンクールにおいて常にトップレベルの成績を維持している団体や個人の花壇について、毎年度審査し、五つ星制度により格付けし認定された花壇です。今年度の結果は次のとおりです。

認定花壇管理団体（個人）		部　門	認 定 星 数	花壇の所在地
富山市	四方ガーデニング愛好会	花 の 道	★★★★★	富山市立四方小学校・保育所隣接遊歩道
砺波市	高波花と緑の推進協議会	一般花壇	★★★★	砺波市高波　砺波市農協高波支所隣接　農村公園内
大門町	浅井　ひとみ	個人花壇	★★★	大門町下条　下条バス停付近　下条構造改善センター隣
富山市	宮ノ下村づくり会	花 の 道	★★★	富山市八尾町宮ノ下　県道西松瀬・八十島線　宮ノ下公民館前付近
砺波市	栴檀山花と緑の推進協議会	一般花壇	★★★	砺波市井栗谷　井栗谷トンネル付近（山田方面側）

審査講評　今年から新しい審査部門として登場した「推奨花壇」にノミネートされた4つの団体、一つの個人は、いずれも長年にわたって、花づくりの技術は勿論のこと、組織づくり、資金の調達、花づくりの普及など、花と緑づくりの実践と普及に関し幾多の困難と挫折を乗り越えながら、経験によって培われた確かな技術と、実践によって得た地域社会からの信頼と協力に支えられ、揺るぎない花づくりを進められた粒ぞろいの作品であった。

それだけに、花づくりにはそれぞれ特徴があり、栽培技術はいずれも高い水準で、花の生育はすばらしい出来栄えであった。また、細かいところに、見せるこころ配り、飾るこころ配りや工夫が、随所にみられるなど完成度の高い作品ぞろいであった。

また、経費の節減、無理のない労力での花づくりなど、今後の花づくりで課題となる問題にも積極的に取り組み、改善を図っていることなどは高く評価できる。

今回は、ノミネートされた5つの作品全部が「推奨花壇」として設定されたがこれらの花壇が単に名誉ある花壇にとどまることなく、県内で花づくりをすすめている多くの皆さんが、技術向上のための学習の場として、また、自らがこれを乗り越える目標として位置づけ、推奨花壇を媒体として県内の花づくりのレベルアップと普及に大きな役割を果たすことを心から期待いたします。

◆グリーンキーパーガイダンス研修の開催について

来年度グリーンキーパー登録希望者に対する事前ガイダンスを行います。

日　　時　平成17年１１月１８日（金）　１３：３０～１６：００
場　　所　富山県中央植物園研修室(2F)　富山市婦中町上轡田４２
内　　容　地域におけるグリーンキーパーの役割と活動について
参加申込先　各支店（市町村花と緑の担当課）へ（定員８０名）
問い合わせ　「花と緑の銀行」普及研修部TEL０７６-４６６-２４２５

表紙/裏表紙写真　撮影：名畑清信（花総合センター部長）

お詫び：前号１０ページ滑川市都市開発課の亀澤さんの名前が誤っていました。正しくは千晴さんでした。

ツリガネニンジン/婦中町音川

花と緑の銀行だより　157号

発 行 日　平成17年9月

編集発行　財団法人　花と緑の銀行

〒939-2713　富山県富山市婦中町上轡田42
TEL　076-466-2425　FAX　076-465-5923
HP　http://www.bgtym.org/fgbank/

富山県中央植物園
〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42
TEL　076-466-4187　FAX　076-465-5923
HP　http://www.bgtym.org

富山県花総合センター
〒939-1383　富山県砺波市高道46-3
TEL　0763-32-1187　FAX　0763-32-1219
HP　http://www.pref.toyama.jp/ branches/1692/1692.htm

県民公園頼成の森
〒939-1431　富山県砺波市頼成156
TEL　0763-37-1540　FAX　0763-37-1450
HP　http://www.bgtym.org/ranjounomori/

R100 古紙配合率 100%再生紙を使用しています。